

青 垣

第26号 発行日 平成22年3月23日

雲南市立吉田中学校だより

輝かしい足跡を残し 卒業式 = 巣立ち = ～感謝の気持ちを込めて～

吉田中学校 第14回卒業証書授与式を3月13日(土)に行いました。当日は、卒業を祝うかのような晴天に恵まれる中、凜とした雰囲気の中で卒業式が行われました。卒業生21名は、開校以来の偉大な業績と感謝の言葉を残し巣立ちました。

卒業式は、出会う相手に正面から向き合い、堂々と自分を表現してほしいとの願いから、昨年度から卒業生と在校生・保護者が向き合う対面式で行っています。この形での卒業式は、生徒や保護者はもとより、地域の来賓の皆様からも好評でした。



凛々しい卒業生

卒業生は、自信に満ちた呼名の返事と堂々と卒業証書を受け取る姿で見守る人に成長を伝えました。

保護者の皆さんは、成長した我が子の姿に多くの感動を覚えるとともに、数々の思い出が脳裏に浮かび感激もひとしおだったと思います。

在校生は、卒業する先輩に学校行事でお世話になったことや、部活動での活躍など数々の出来事に思いを馳せました。そして、ご多用の中ご臨席をいただきました来賓の方々には、励ましの言葉とともに温かな眼差しで卒業生を祝福していただきました。

教職員は、卒業生一人一人の体育祭での活躍や文化祭での一場面、教室での笑顔などその時々表情を思い起こしながら雛壇(ひなだん)の生徒を見つめていました。そして、卒業生が健康で責任ある社会人に成長してくれるようにと願いました。



最後のクラス写真

あの演奏・あのプレー 仲間との思い出 ～忘れない部活動“最高”～

卒業式では、中学校を巣立つ皆さんに、感謝の気持ちを込めて、思い出深い出来事やメッセージを送りましたので、その一部を紹介をします。

皆さんは、生徒会活動や部活動において、この吉田中学校に新たな歴史をしっかりと刻みました。

体育祭では、一人一人の一生懸命な演技が見る人に感動を与え、文化祭では、全校壁画やクラス合唱を通し仲間が一つになる素晴らしさを伝えました。そして、緑の少年団活動では、額に汗しながら学校林の手入れを行い、先輩達の活動を継承しました。こうした、皆さんの活躍は、下級生にとって大きな目標となり尊敬に値するものでした。中でも、部活動での活躍は目を見張るものがありました。



卒業証書授与

バレー部の大きな思い出の一つに、2年生の夏に開催された隠岐での県大会があげられます。皆さんが入部した当初は、部員数の不足から大会に参加することさえ出来ませんでした。そして1年後、新入生を迎え「隠岐に行くぞ」を合い言葉に一丸となり練習を積み重ね、とうとう隠岐での県大会に出場しました。フェリーから眺めた真っ青な日本海は最高でした。参加した選手も応援していただいた皆さんも、隠岐での暑い・熱い夏を忘れないでしょう。

そして、2年生の秋、雲南市飯南町の代表として、第55回出雲地区新人バレーボール大会に参加し、第三位という好成績を修めました。この成績は、実に20年ぶり二度目の快挙でした。

6月に行われた雲南市飯南町総合体育大会では、拾って繋ぐ持ち前のプレーで接戦を勝ち抜き、鹿島町での県大会に出場しました。大会では、1回戦を勝ち上がり2回戦で強豪の八束中学校と対戦しました。残念ながらカーブおよばず涙を飲みましたが、皆さんの最後まであきらめない一生懸命なプレーは、応援する人に感激の涙をさそいました。私は、プレッシャーに押しつぶされそうになりながらも頑張る皆さんの姿に明日への成長を感じました。

「ありがとう」を胸に 家族や郷土を愛する人に 十五の春 義務教育が終了

野球部の活躍は、「吉田中ここに有り」と多くの
人に知らしめ、地域に元気と勇気をもたらしました。

6月に開催された雲南市飯南町地区予選では、一進一退の緊迫したゲームを、仲間との信頼で繋がった全員野球で勝ち上がり、悲願の県大会への出場を手に入れました。県大会への出場は8年ぶり5回目で、地域の皆さんに大変喜んでもらいました。

第63回島根県優勝野球大会に参加した本校は、匹見公園野球場で3試合を戦いました。1回戦は浜田地区優勝校で強豪の浜田一中と、そして、2回戦は優勝候補の益田東中と試合を行いました。両校との対戦は、共に手に汗握る白熱したゲーム展開となりました。本校は、選手一人一人の粘り強いプレーで1点を守りきり念願の県ベスト8に入りました。

3回戦は実力校を倒し勝ち上がってきた吉賀中との対戦でした。試合は両校ともに譲らず2対2のまま延長戦に。選手たちは、特別延長の10回裏まで力の限り戦い抜きましたが、勝利の女神は相手校に微笑みました。残念ながらベスト4の願いは叶いませんでしたが、県大会での3試合は、私たちの記憶に残る吉田中らしい最高のゲームでした。私は、泣き崩れている皆さんに、「胸を張って吉田に帰ろう」と声を掛けたことを、忘れないでしょう。

野球部の県大会ベスト8は、開校以来、最高の成績であり、本校の歴史に大きな足跡を残しました。



式歌「旅立ちの日に」

野球部・吹奏楽部・バレエ部



県大会・中国大会出場 横断幕

吹奏楽部は、八月初旬に出雲市民会館で開催された吹奏楽コンクール島根県大会、中学校小編成の部に出演しました。部員の心を一つにした演奏は、聴衆を魅了し、出場27校中2位の好成績で金賞を受賞しました。そして、夢にまで見ていた中国大会への切符を手に入れました。生徒たちは、県大会での反省をもとに、中国大会では必ず「悔いを残さない演奏をする」との強い決意のもと、島根県代表として中国大会で戦える演奏を目指し練習に励みました。

中国大会は夏休みも終わりに近づいた8月23日、山口県周南市文化会館で開催され、中国5県の代表10校が日頃の練習の成果を競い合いました。

会場には、遠路多数の皆様に応援に駆けつけていただきました。この応援は、生徒の励みになるとともに精神面で演奏を大いに支えてもらいました。



卒業生 答辞

大会当日、3番目に出演した吉田中学校は、カーナウ作曲の「動物園の一日」を張り詰めた空気の中で堂々と演奏をしました。生徒たちの緊張感をもった一生懸命な演奏に、私の腕には鳥肌が立っていました。動物園での様子や風景を思い描かせる素晴らしい音色は、演奏者の思いを聴衆に伝え、会場からはひととき大きな拍手が贈られました。私は、演奏後の達成感に満ち溢れた、生徒たちの満面の笑顔を、今でもをしっかりと覚えています。

会場に響き渡った本校の素晴らしい演奏は、みごと中国大会で“銀賞”を獲得し、吉田中学校の歴史に新たな金字塔を打ち立てました。

卒業生の皆さんは、それぞれの部活動において輝かしい成果を修めることができました。皆さんが思いっきり部活動に打ち込むことができたのは、「日々支えてくださった家族があったからこそ」です。そして、皆さんを心から応援をしてくれる友達や先輩、一緒に厳しい練習に耐えてきた仲間や後輩、さらに、大きな力となって支援をしてしてくださった地域の皆さんのお陰でもあります。

このことを卒業に当たり改めて胸に刻んでほしいと思います。そして、感謝の気持ちと支え合える強い絆を財産に、家族を愛し郷土を愛する人に成長してください。♪たたなづく青垣 うるわしきふるさと♪



最後に、卒業生の皆さんに、この言葉を送ります。「有志者事竟成」ステージ上にも掲げましたが、「ころざしあるものことつひになる」と書かれています。この言葉は、中国の光武帝が残したもので「志のある者は必ず事を成す」という意味があります。志とは、心に強く思い、決めた目標や理想のことです。事を成すとは、自分で決めた事柄を成し遂げるとのことです。「有志者事竟成」とは、心に強く思い、決めた目標や理想は、あきらめずに努力することにより必ず実現する」ということです。

卒業生の皆さんの、健やかな成長と限りない発展を願っています。＝卒業 子去れり窓辺に教師暮れ＝



応援団「頑張れコール」